

株式会社イーエムネットジャパン

2026年12月期 第1四半期
決算説明資料

2026年5月13日

CONTENTS

1. エグゼクティブサマリー

2. 決算概要

3. KPI

1. エグゼクティブサマリー

営業収益（売上高）

4.14億円（▲2.4%）

営業利益

0.63億円（▲1.1%）

営業収益・営業利益
ともに前年と
ほぼ同水準で推移

2. 決算概要

営業収益・営業利益ともに前年と同水準で推移

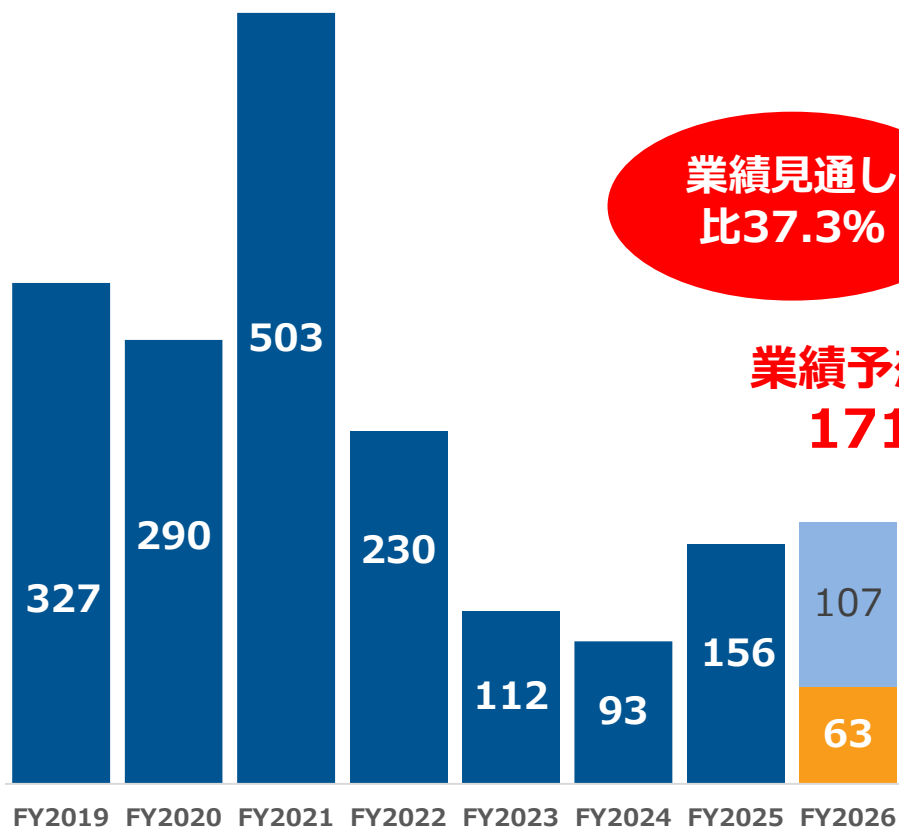
前第1四半期比					
(百万円)	2025年12月期 第1四半期	2026年12月期 第1四半期	増減	増減率	
営業収益 (売上高)	424	414	△10	△2.4%	
営業利益	64	63	△0.7	△1.1%	
経常利益	62	74	+11	+18.7%	
当期純利益 (△純損失)	△146*	61	+208	—%	

* 前期の当期純損失は2026年3月31日公表の貸倒引当金繰入額計上によるもの

営業利益の予算進捗率は37.3%

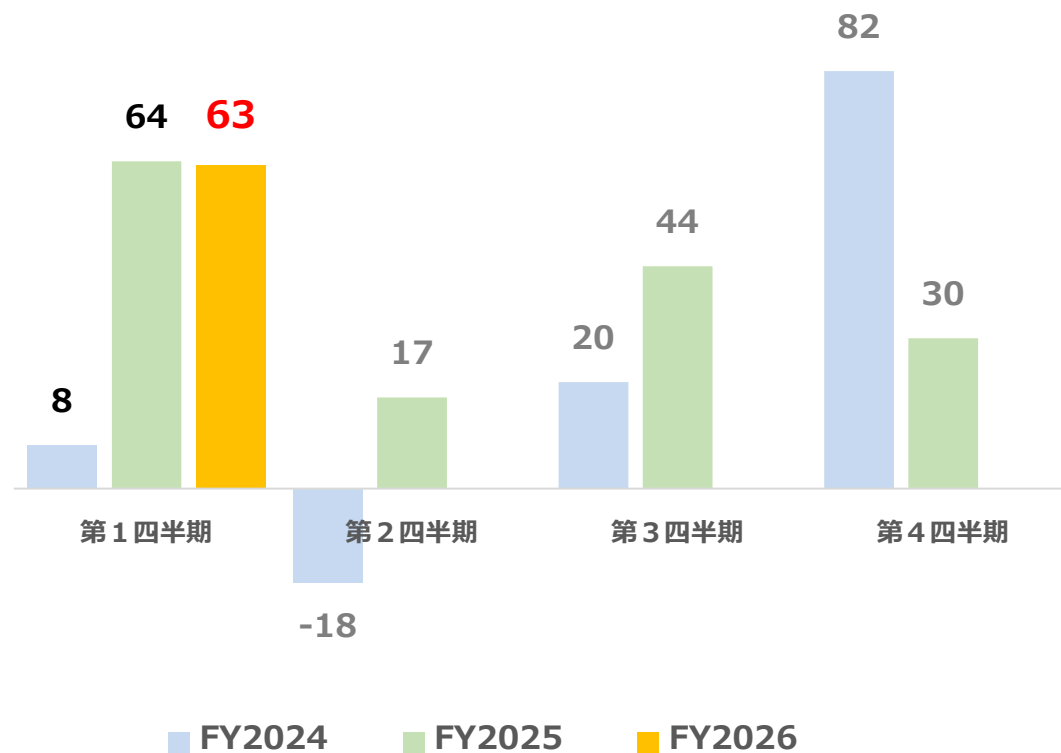
営業利益 推移

単位：百万円



四半期営業利益比較（各3カ月間）

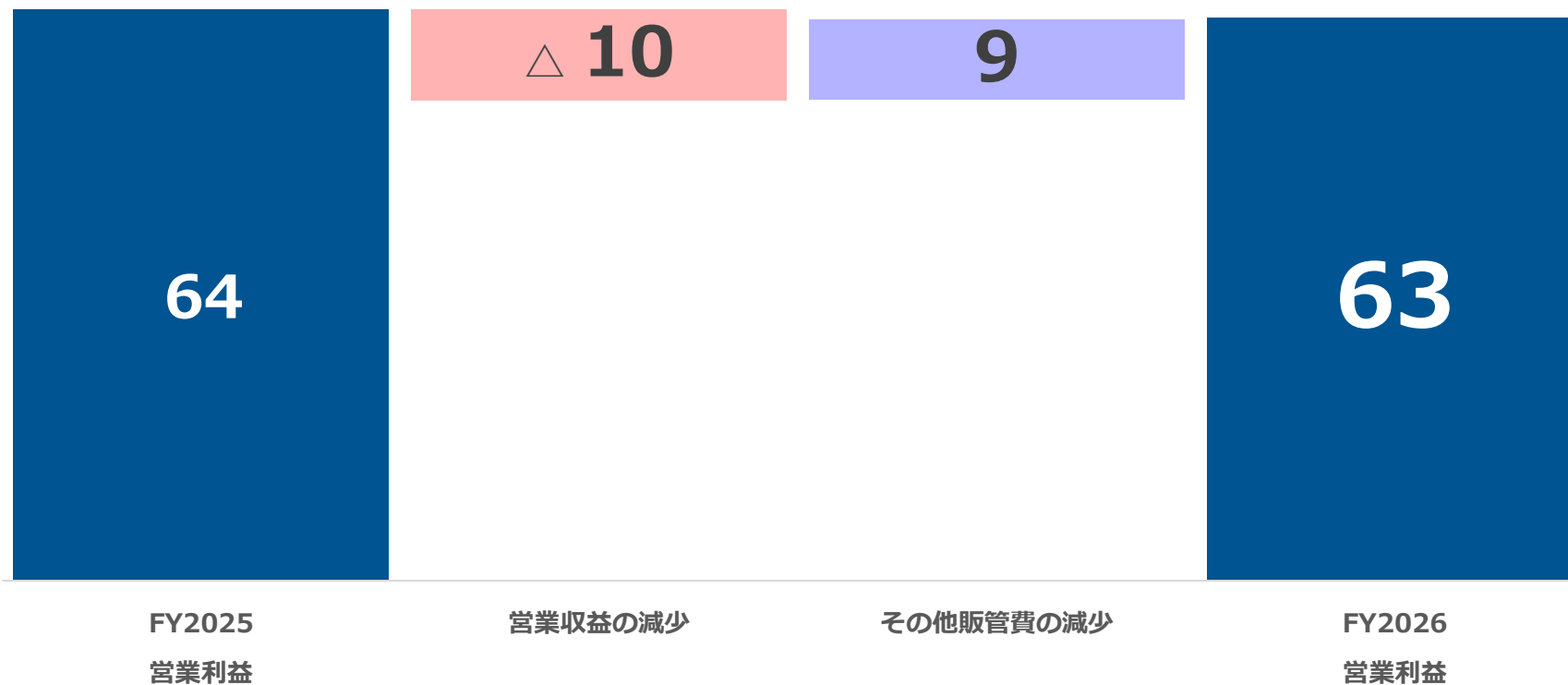
単位：百万円



営業収益は微減したものの、コスト削減により営業利益は前年並み

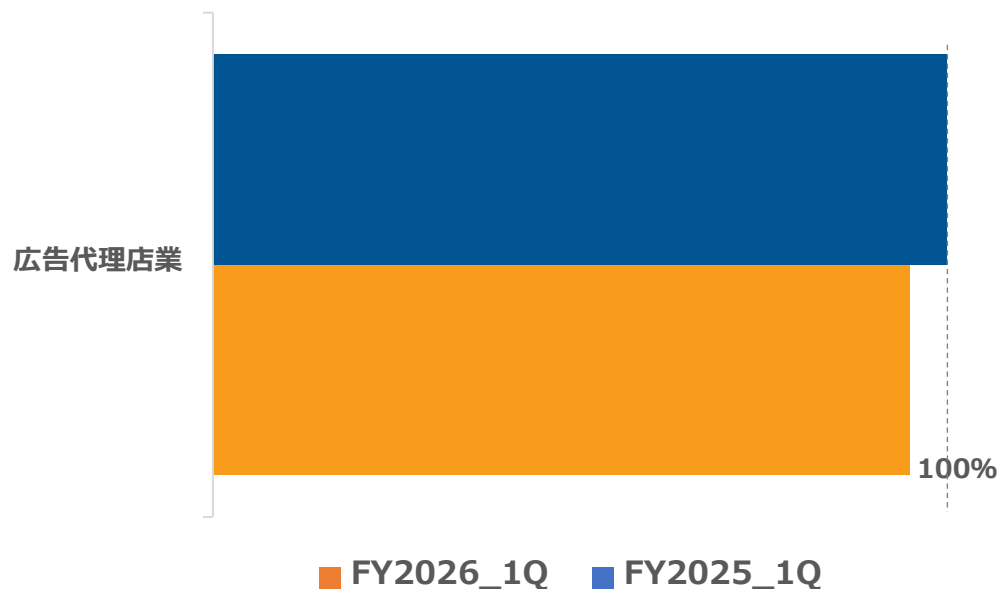
営業利益 増減要因分析（前期比）

単位：百万円



広告代理店業では前年同期の大型スポット案件分の解約インパクトが大きく、約 5%の減収

広告代理店業 営業収益 増減（前第1四半期比）



1Q 概況

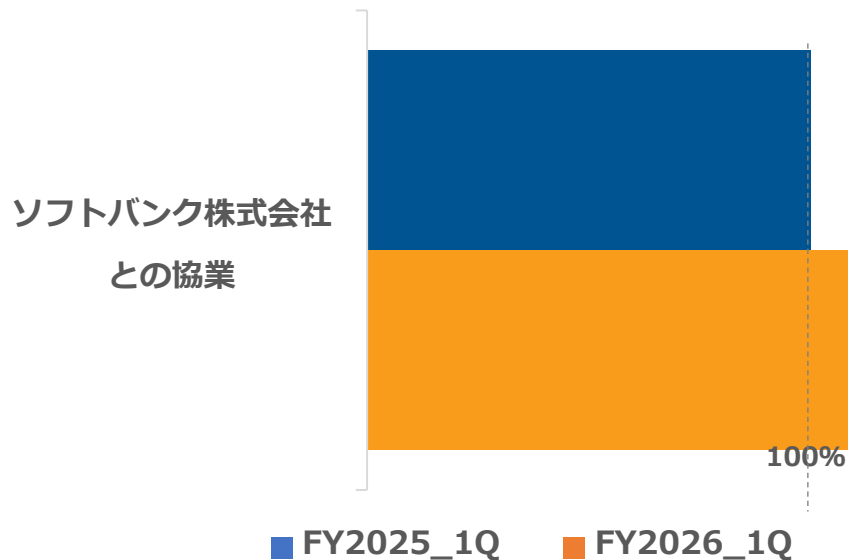
- ✓ 前第1四半期は大型スポット案件の新規受注があったものの、当第1四半期は前年同期比ほどの新規受注が獲得できていない影響から前年同期比で約 5%減収
- ✓ 既存案件に関しては、前年同期比とほぼ同水準で推移

今後の 見通し

- ✓ 既存案件においては、1件当たりの利益率を意識したクロスセルの強化を図りつつ、大型案件の解約抑止に注力
- ✓ 新規案件においては、引き続き中大型案件の新規案件獲得強化を図る
- ✓ 生成AIを活用した独自サービスの展開強化

SB協業においては主要既存案件での広告予算増加、及びLINE公式アカウント運用案件増加により、前年同期比 +9%の増収

ソフトバンク株式会社との協業 営業収益 増減（前第1四半期比）



1Q 概況

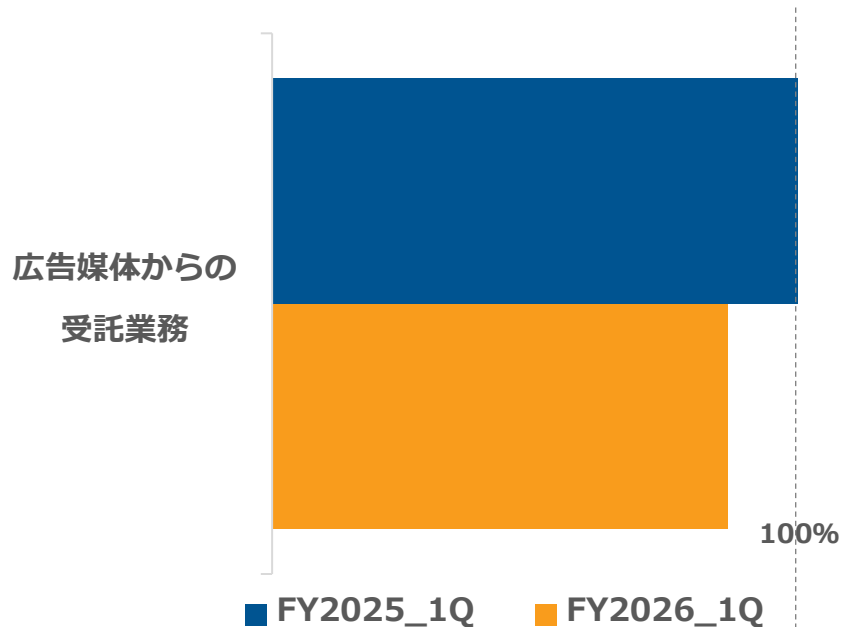
- ✓ 昨年に続いて今期もSB協業による収益拡大は順調に図れており、前第1四半期比+9%の増収
- ✓ 増収の主な要因は、主要既存案件での広告予算の増加が進められていることに加えて、LINE公式アカウント運用案件が前年同期比と比べて増加していることが挙げられる

今後の見通し

- ✓ 2Q以降も前年同期比を上回る水準を目指す
- ✓ 主要既存案件を中心とした広告予算増額に向けたアクション強化に加え、LINE公式アカウント運用案件数の拡大による増収を目指す

広告媒体からの受託業務においては受託単価の減少により、 前年同期比 -13%の減収

広告媒体からの受託業務 営業収益 増減（前第1四半期比）



1Q 概況

- ✓ スポット案件の受託は増加したものの、定常案件の受託単価が減少したことにより、前第1四半期比で-13%の減収

今後の 見通し

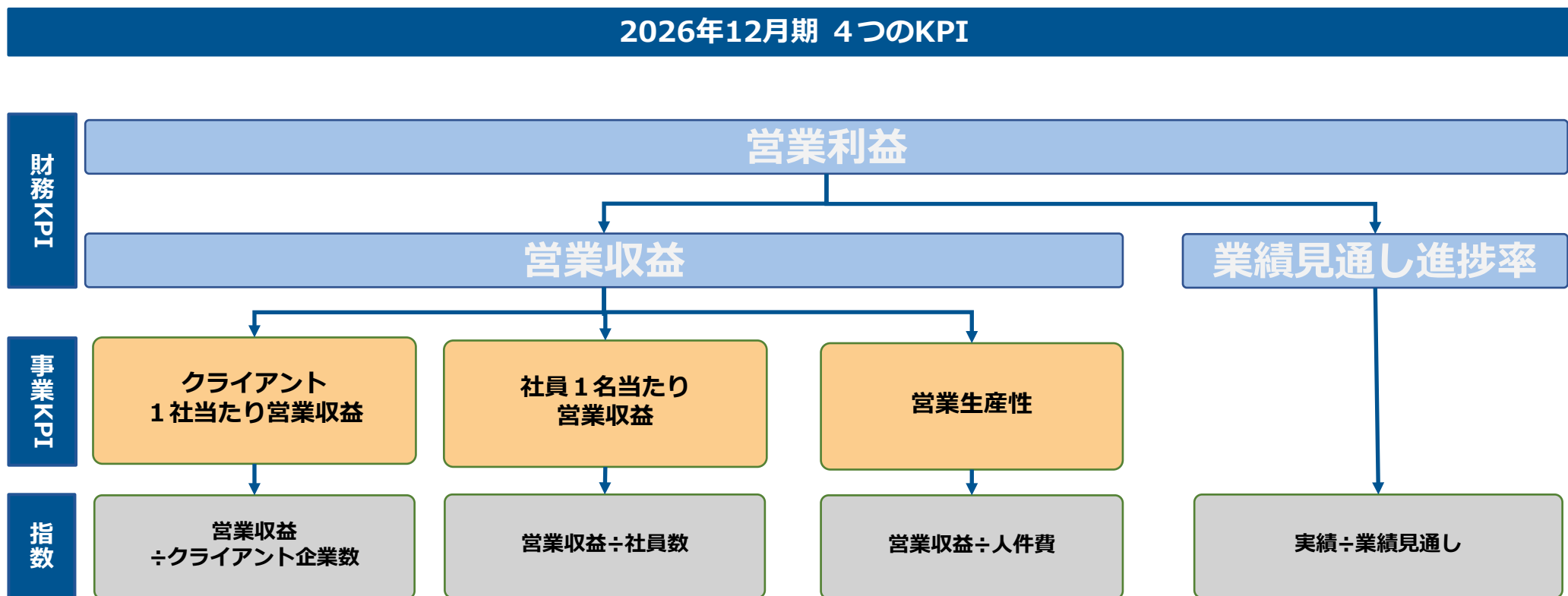
- ✓ 2Q以降は、新規の受託案件獲得に向けた営業を強化
- ✓ さらに受託業務領域の拡大に向けた協議により、2Q以降も前年同期比及び業績見通しを上回る水準を目指す

引き続き安定的な財政状態を維持

(百万円)	前期末	2026年12月期 第1四半期末	前期末比
流動資産	1,830	1,878	+48
内 現預金	567	638	+70
固定資産	504	399	△105
資産合計	2,334	2,277	△56
流動負債	1,382	1,252	△130
固定負債	175	184	+9
負債合計	1,558	1,437	△121
純資産	776	840	+64
負債・純資産合計	2,334	2,277	△56
(自己資本比率)	33.2%	36.9%	

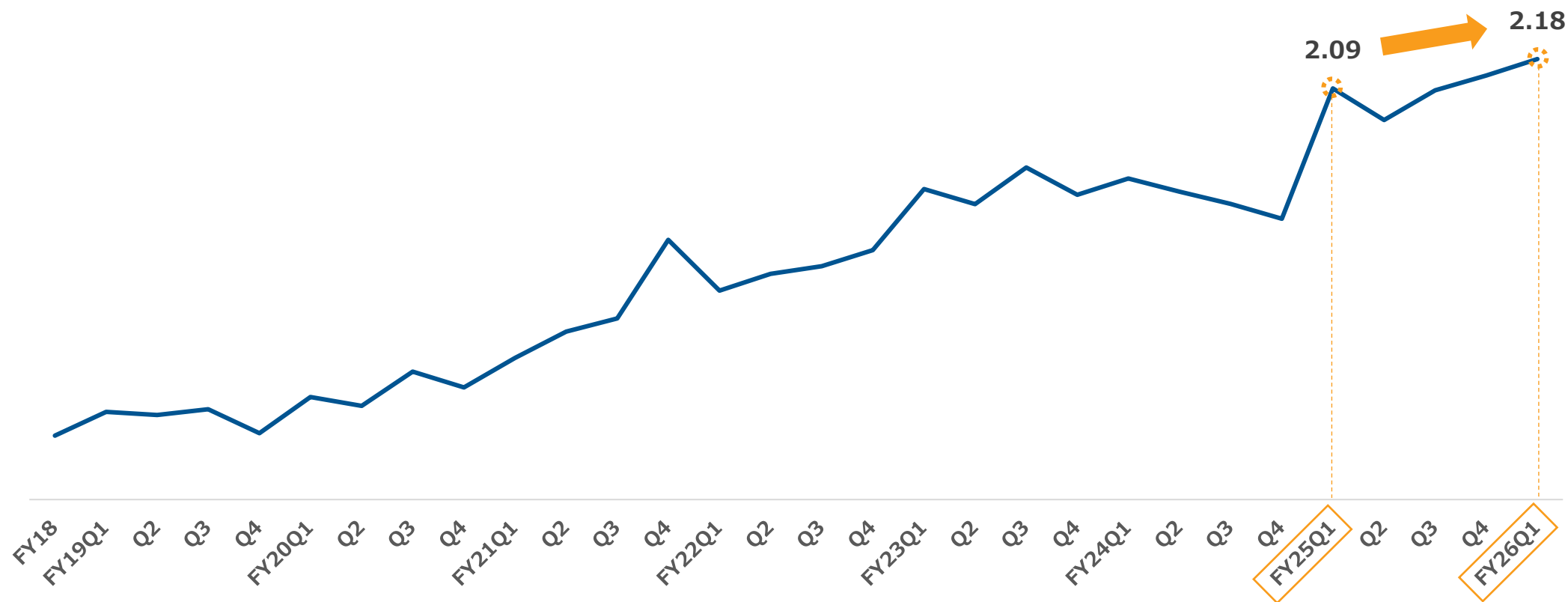
3. KPI

前期以前より継続して4つのKPIを設定



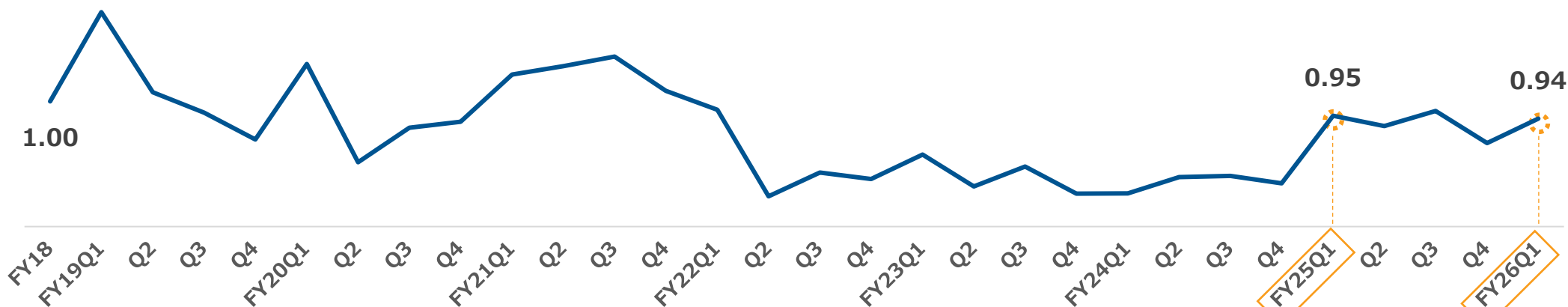
引き続き広告予算の中大型案件獲得に注力。当第 1 四半期では、SB協業の拡大が全体の成長を牽引することにより、1社当たり営業収益は2.18まで大幅に上昇

クライアント 1 社当たり営業収益



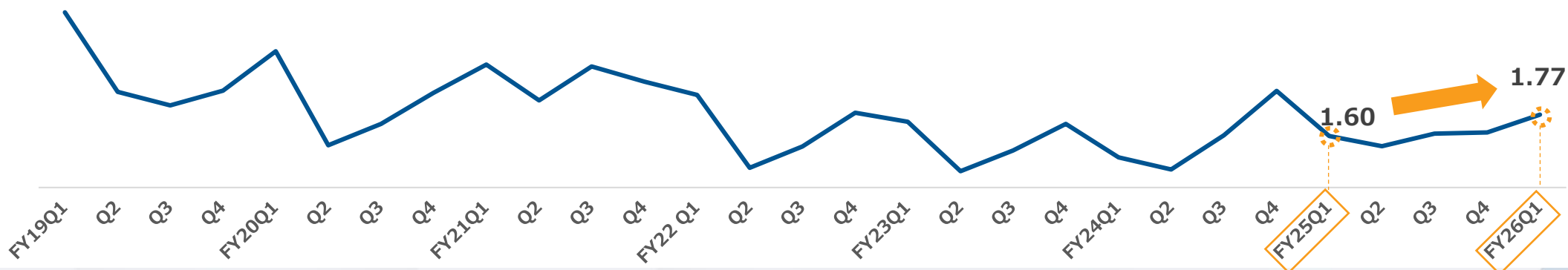
1社員当たり営業収益は昨年同期比と同等水準で推移しており、 営業生産性は約10%改善

1 社員当たり営業収益



(注) 2022年12月期の第4四半期よりソフトバンク株式会社への出向社員が増加したことにもとない、以降、出向社員を除いて算定

営業生産性 (営業収益 ÷ 人件費)



業績見通しに対して順調に進捗

通期業績見通しに対する進捗状況			
(百万円)	2026年12月期 通期業績見通し	2026年12月期 第1四半期	進捗率
営業収益 (売上高)	1,661	414	24.9%
営業利益	171	63	37.2%
経常利益	185	74	40.0%
当期純利益	136	61	45.2%



e-Marketing Network